

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22243046

研究課題名(和文) 21世紀型アカデミック・プロフェッション展開の国際比較研究

研究課題名(英文) International Study on the Development of 21st Century Type Academic Profession

研究代表者

有本章(Arimoto, Akira)

広島大学・高等教育研究開発センター・名誉教授

研究者番号：00030437

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,900,000円、(間接経費) 10,770,000円

研究成果の概要(和文)：研究の全体構想に基づいて、大学教授職(アカデミック・プロフェッション, AP)の全体像を国際比較研究によって体系的に究明した。
具体的には、世界最初の大規模なAP国際調査であるカーネギー調査(1992)を踏襲した世界の19カ国を対象としたCAP調査(2007)やアジアの6カ国を対象としたAPA調査(2012)から得たデータを用いて各国の大学教授職のモデルを徹底分析した。

研究成果の概要(英文)：Whole image of the academic professions (AP) was studied systematically by an international comparison on the basis of a total framework of research.
Specifically, the academic professions of each country was thoroughly analyzed using data obtained from CAP investigation (2007) for 19 countries and APA investigation (2012) for Asian six countries.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：アカデミック・プロフェッション 知の再構築 国際比較研究 世界と日本のシステム 21世紀型専門職像構築 有識者

1. 研究開始当初の背景

本研究の中核概念 AP に関する内外の研究は、1940 年代の L.Wilson, 1960 年代の T.Caplow=R.McGee, 新堀などに淵源し、主要には 1980 年代から B.Clark, P.Altbach, W.Cummings, T.Becher, .Kogan, M.Finkelstein, 新堀, 山野井らを中心に発展した (B.Clark[1987]Academic Life ; P.Altbach ed.[1996] The International Academic Profession ; P. Altbach and M. Finkelstein [2002], The Academic Profession; 新堀通也 [1964], 『日本の大学教授市場』, 同編[1984], 『大学教授職の総合的研究』; 山野井敦徳 [2007], 『日本の大学教授市場』)。

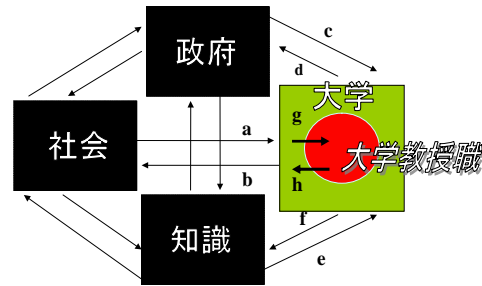
本プロジェクトの研究代表者 = 有本(以下、代表者と略)はかかる国際的動向を踏まえ、いち早く 1960 年代から AP 国際比較研究を開始した(新堀通也・有本章[1969]「大学教授の経歴型の国際比較」(社会学評論); 有本[1981]『大学人の社会学』; 有本[2004]『大学教授職とFD』; 同編[2008]『変貌する日本の大学教授職』)。その間、科学社会学の知識論的方法論の AP 研究への活用が重要性を増し、J.Ben-David, T.Becher, M.Kogan, B.Clark, S.Parry などの先行研究が展開された (T.Becher [1989]Academic Tribes and Territories; B.クラーク(有本訳)[1994]『大学組織の比較社会学』; 同[2004](有本監訳)『大学院教育の国際比較』; S.Parry[2005]Disciplines and Doctorates など)。代表者は 1970 年代から同様の取組みを開始(有本章[1987]『マートン科学社会学の研究』; 同編[1996]『学問中心の研究』)。そして、カーネギー14カ国[米,英,独,蘭,露,スウェーデン,メキシコ,ブラジル,チリ,豪,韓,香港,イスラエル,日の13カ国1地域]調査(1992),それを踏襲した日本調査(2007)及び上記のCAP(Changing Academic Profession)19カ国調査(2007)を日本代表として実施し成果を公表してきた (P. Altbach ed.,1996;有本・江原編,1996 ; 有本編,2008 ; RIHE International Seminar Reports,2009 ; Springer CAP Series,2009 ~)。

本プロジェクトは以上の先行研究・調査等を踏まえ、特に CAP 国際調査(2007)の発展的継承を企図する点に主眼と特徴がある。前回のプロジェクト(基盤研究A)「21世紀型アカデミック・プロフェッション構築の国際比較研究」(2006-2009年度)では、APの世界モデル(ドイツ型=G型・アングロサクソン型=AS型・ラテンアメリカ型=LA型やシステム・モデル(アメリカ型・日本型等)の構築)(construction)に焦点化した。本プロジェクトではそれらの[展開](development)に焦点化し、CAP調査から得られた、諸領域(研究・教育・サービス・管理運営などの学事、キャリア・パターン、学問的生産性、FD、学閥、スカラーシップ=学識、質保証・評価等)に関わる各国固有システム・モデルの展開過程を縦軸(歴史)と横軸(現状)から比較研究する。

2. 研究の目的

主題は 21 世紀型 AP の内外における展開過程に関する比較研究による解明である。専門職たる AP は社会・政府・知識・大学など様々な要因との相互関係によって規定され、新たな使命・役割・機能を創造的に遂行している(図1)。その際、世界・国家・機関・組織の各レベルに対応した AP のシステム・モデル(類型)が形成される構図の中で、CAP調査(2007)は次の諸点を解明した。

図1 大学教授職の環境変化



第1に、中世大学の原型の影響を受けて形成されたG型・AS型・LA型などのAPの世界モデルが変容する事実。管理運営、キャリア・パターン、研究・教育志向(学識)、学問的生産性等の変化が顕著だが、スカラーシップ=学識に限定し研究・教育志向を事例にすると、研究志向=G型の独・日・韓は原状維持、半々志向のAS型の英・豪・香港などや教育志向=LA型のアルゼンチン、メキシコなどは研究志向へ同調を深めた。

第2に、世界モデルの下位に、米国型、韓国型、日本型など各国固有のシステム・モデルが研究・教育・サービス・管理運営などに即して存在する事実。再び研究・教育志向を事例にすると、世界モデルではG型に属する韓国は研究志向を強め、日本は模様眺めであるのに対して、AS型の米国は教育志向を強めた。なぜそのような固有性を発揮するのか、CAP調査では不可能な原因究明を今回はシステム・機関・組織に照準して独自の展開過程を見極める作業が不可欠である。

第3に、システム下部の機関・組織レベルにおけるセクター・セクション類別などに即した多様なモデルの構築する。やはり研究・教育志向を事例にすると、フンボルト理念に反して世界的に研究と教育の乖離化が進行、その背後にシステム固有の力学が作用している事実が存在している。

かくして、かかるCAP調査結果を踏襲しつつ、本研究は各システム・モデルを縦軸・横軸から比較考察すると同時に、以下の通り、システム間の異同メカニズムを機関・組織に即して分析する。

3. 研究の方法

今回のプロジェクトでは、2010年から2014

年までの4年間に以下の7つの研究活動を展開した。

- (1)有識者調査
- (2)APA(Academic Profession in Asia)調査
- (3)外国訪問調査
- (4)国内学会報告
- (5)国際学会等報告
- (6)APA 国際セミナー開催
- (7)Changing Academy Series 出版

特に、

(1)前回の助成金を受けて日本の医師、弁護士、企業(社長・総務部長)、国家公務員、地方公務員を対象として2008年に実施した「大学教授職に対する有識者調査」(有識者調査)を、大学教授職にも実施し、有識者と大学教授職の意識の違いを確認した。

(2)アジア10ヶ国(日本、中国、台湾、マレーシア、カンボジア、ベトナム、シンガポール、インドネシア、タイ、インド)が集まって同一の調査「アジアにおける大学教授職に関する調査」(APA 調査)を作成し、2012年から実施した。現在、6ヶ国から集まったデータの分析を始めた。

(3)前回の助成金を受けて2008年に19ヶ国で実施した「大学教授職の変容に関する調査」(CAP 調査)によって収集した25,938件のデータベースの再分析とその知見を補うための訪問調査を行った。

(6)これらの調査を計画・調整・実施・分析結果の検討を行うために、国内・外の共同研究者が集まって会議を開催した。

4. 研究成果

上記7つの活動について以下の通り成果を得た。

(1) 有識者調査

大学教員を対象として、大学教員のイメージや理想像などに関するアンケート調査を実施するとともに、2009年12月～2010年2月に、医師、弁護士、会社社長、国家・地方公務員などの有識者を対象に実施した「大学教授職に関する有識者調査」(質問紙調査)を、大学教員を対象として実施し、その調査結果を比較検討した結果、次の点が判明した。

大学教員に対するイメージとして、大学教員も有識者も「学歴が高い」を1位に指摘した。

「世間から受ける尊敬が大きい」との大学教員イメージを抱くのは、大学教員よりも有識者の方が強かった。

大学教員の方が「責任が大きい」「精神的なストレスが大きい」「大学教員は、学生の人格を重んじ、学生の自由な学習を支援すべきである」「教育よりも研究に関心をおくべき」等ではイメージが強かった。

社会サービス活動の多くについては有識者の方が必要性を感じていた。

(2)APA (Academic Profession in Asia)

調査(アジア7カ国実施、質問紙等調査)

日本の大学教員を対象として、専門的活動(教育・研究・社会サービス等)に関する意識や行動に関する調査を実施した。6282人に配布し1045人から回答があった(回答率は16.6%)。1992年時の大学教員の特徴と比較して、この度の調査(2011年調査)では次の12点が判明した。

大学教員に占める女性比率が約2倍に増加した。

博士学位取得者比率が増加した。

任期付雇用者が急増した。

大学院課程教育を担当する教員が増加した。

現在の学生の質を5年前と比べた場合、悪いと回答する教員比率が増加した。

教育・研究条件の改善が認識されていた。

専門分野での研究者としての訓練について、「よい」を選択した教員比率が高くなっていった。

学期中の研究時間数は有意に減少した。

教育活動の評価が進展した。

交付研究費額が増加していた。

研究成果量が増加していた。

海外で開催された学会や学術会議への参加回数が倍増していた。

(3)アジア6カ国調査

社会の国際化・情報化・高度化など、近年の高等教育を取り巻く環境の変化は、大学教員の意識や行動に強い影響を与えてきたものと思われる。この実態をアジアレベルで明らかにするため、アジア8カ国(日本、中国、台湾、マレーシア、インドネシア、ベトナム、カンボジア、シンガポール)の高等教育研究者が集まって「アジアにおける大学教授職の変容に関する調査」を実施した。

8ヶ国の内、インドネシアとシンガポールを除いた6ヶ国を比較することを通して、この6ヶ国の大学教授職の特徴を記述するとともに、この6ヶ国の中での日本の大学教授職の特徴を明らかにした。各国の有効回答者数は、カンボジア531名、中国2480名、台湾412名、日本1048名、マレーシア660名、ベトナム800名である。以下の9点が明らかになった。

大学教員の女性比率は日本が15.3%でアジア6カ国平均37.0%よりもかなり低くなっていた。

大学教員の50歳以上の比率は、日本が45.7%でアジア6カ国平均21.8%を大きく上回っていた。

博士号取得率は、日本が81.6%で、アジア6カ国平均の50.9%を大きく上回っており、9割以上の教員が博士号を国内で取得していた。

日本の大学教員の研究志向はアジア6カ国中最も高くなっていた。

教室、実験室、図書館、教育用機器、コンピュータ機器、通信設備、教育支援スタッフの7項目についての状況を尋ねた結果、

日本はすべての項目で良好の割合が最も低くなっていた。

日本は、研究活動を評価してもらうことを強く期待する教員比率が高くなっていた。

研究時間数を尋ねたところ、学期中も休暇中も日本が最長であった。

研究成果については、「論文」「学会発表」「芸術活動」において日本が1位であった。

日本の教員は、「自分の専門分野の発展についていくには、外国の書物や雑誌を読む必要がある」と回答した割合は最高(93.0%)で、逆に、「本学のカリキュラムはもっと国際的視野から編成されるべきだ」と回答した割合は最低(48.4%)であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計46件)

1. Akira Arimoto, Factors determining academics' job satisfaction in Japan from the perspective of role diversification, *The Changing Academy*, 査読有り, 4, 2013, pp.145-165.
2. Akira Arimoto, The changing nature of academic work from an international perspective, *Higher Education Forum*, 査読有り, Vol. 8, 2011, pp. 1-22.
3. Akira Arimoto, The academic profession and managerial university: An international and comparative study from Japan, *European Review*, 査読有り, 18, 2010, pp.117-139.

[学会発表](計17件)

1. Akira Arimoto and Tsukasa Daizen, The Consciousness and Action in an Educational Activity of Japanese Academic Profession: By Using the Questionnaire in Asian Seven Nations, 第6回日中高等教育フォーラム, 2013年8月27日, 同志社大学
2. 有本章, 大膳司, 黄福涛, 木本尚美他, 変貌するアジアの大学教授職(1) - 「変貌するアジアにおける大学教授職調査」の分析 -, 日本高等教育学会第16回大会, 2013年5月25日, 広島大学
3. Akira Arimoto, Teaching and Research Nexus, CAP International Conference, June 6 2012, Kassel University and

Berlin Free University, Berlin, Germany

4. 有本章, 大膳司, 葛城浩一, 木本尚美他, 有識者から見た大学教授職の研究(2) - 大学教授職に関する意識調査の分析 -, 日本教育社会学会第63回大会, 2011年9月23日, お茶の水女子大学

5. Akira Arimoto, The changing nature of academic work from an international comparative perspective, CHER Annual Conference, June 11 2010, University of Oslo, Norway

[図書](計21件)

1. U. Teichler, A. Arimoto, & W.K. Cummings (Eds.), Springer, *The Changing Academic Profession: Major findings of comparative survey*. 2013, 260p.
2. J.C. Shin, A. Arimoto, W.K. Cummings, & U. Teichler (Eds.), Springer, *Teaching and Research in Contemporary Higher Education; Systems, Activities, and Rewards*, 2013, 410p.
3. Akira Arimoto et al., Routledge, *The Emergent Knowledge Society and the Future of Higher Education: Asian Perspective*, 2012, 223p.
4. Akira Arimoto et al., Springer, *Changing governance and management in Higher Education: The Perspective of the Academy*, 2011, 390p.
5. Akira Arimoto et al., Johns Hopkins University Press, *National Innovation and the Academic Research Enterprise*, 2010, 578p.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

有本章 (ARIMOTO AKIRA)
広島大学・高等教育研究開発センター・名誉教授
研究者番号: 00030437

(2) 研究分担者

大膳司 (DAIZEN TSUKASA)
広島大学・高等教育研究開発センター・教授
研究者番号: 60188464
黄福涛 (HUANG FUTAO)
広島大学・高等教育研究開発センター・教授
研究者番号: 60335693

(3) 連携研究者

江原 武一 (EHARA TAKEKAZU)
立命館大学・教育開発推進機構・教授
研究者番号: 00012568

山野井 敦徳 (YAMANOI ATSUNORI)
広島大学名誉教授
研究者番号：80019067
山本 眞一 (YAMAMOTO SHINICHI)
桜美林大学・大学アドミニストレーション
研究科・教授
研究者番号：10220469
北垣 郁雄 (KITAGAKI IKUO)
広島大学・高等教育研究開発センター・教
授
研究者番号：20016679
山崎 博敏 (YAMASAKI HIROTOSHI)
広島大学・教育学研究科・教授
研究者番号：10127730
別府 昭郎 (BEPPU AKIROU)
明治大学・文学部・教授
研究者番号：70062015
山田 礼子 (YAMADA REIKO)
同志社大学・社会学部・教授
研究者番号：90288986
藤村 正司 (FUJIMURA MASASHI)
広島大学・高等教育研究開発センター・教
授研究者番号：40181391
浦田 広朗 (URATA HIROAKI)
名城大学・大学院大学・学校づくり研究科・
教授
研究者番号：40201959
西本 裕輝 (NISHIMOTO HIROKI)
琉球大学・大学教育センター・准教授
研究者番号：20301393
天野 智水 (AMANO TOMOMI)
琉球大学・大学教育センター・准教授
研究者番号：90346940
大場 淳 (OBA JYUN)
広島大学・高等教育研究開発センター・准
教授
研究者番号：50335692
吉永 契一郎 (YOSHINAGA KEIICHIROU)
東京農工大学・大学教育センター・准教授
研究者番号：70313492
阿曾沼 明裕 (ASONUMA AKIHIRO)
名古屋大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：80261759
小方 直幸 (OGATA NAQYUKI)
東京大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：20314776
南部 広孝 (NANBU HIROTAKA)
京都大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：70301306
村澤 昌崇 (MURASAWA MASATAKA)
広島大学・高等教育研究開発センター・准
教授
研究者番号：00284224
杉本 和弘 (SUGIMOTO KAZUHIRO)
東北大学・高等教育開発推進センター・准
教授
研究者番号：30397921
渡辺 達雄 (WATANABE TATSUROU)
金沢大学・大学教育開発・支援センター・

准教授
研究者番号：20397920
葛城 浩一 (KUZUKI KOUICHI)
香川大学・大学教育開発センター・准教授
研究者番号：40423363
丸山 文裕 (MARUYAMA FUMIAKI)
広島大学・高等教育研究開発センター・教
授
研究者番号：60144888
渡邊 聡 (WATANABE SATOSHI)
広島大学・高等教育研究開発センター・教
授研究者番号：90344845
秦 由美子 (HADA YUMIKO)
広島大学・高等教育研究開発センター・教
授研究者番号：30263031
福留 東土 (FYKUTOME HIDETO)
東京大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：70401643
島 一則 (SHIMA KAZUNORI)
広島大学・高等教育研究開発センター・准
教授
研究者番号：70342607
長谷川 祐介 (HASEGAWA YUSUKE)
大分大学・教育福祉科学部・准教授
研究者番号：30469324
木本 尚美 (KIMOTO NAOAMI)
県立広島大学・総合教育センター・講師
研究者番号：70106623
田村 周一 (TAMURA SHUICHI)
くらしき作陽大学・高等教育研究センタ
ー・助教
研究者番号：50467643